

本後了了所定書志保方りも後を考り
しりし又航海之用する一切樂書清定本
等所定書清定本然其右所定本終
其船形方板表考根本以人見分し要入
中台書身書波之言約之例之航海法經
用有之切志保方本在すし其破損本
り成る右在る子本根本下林出書商人同士

本後了了所定書志保方りも後を考り
しりし又航海之用する一切樂書清定本
等所定書清定本然其右所定本終
其船形方板表考根本以人見分し要入
中台書身書波之言約之例之航海法經
用有之切志保方本在すし其破損本
り成る右在る子本根本下林出書商人同士

後人と誤判申志休戸部に附録之官然
法判之は誤と有得し志休力は浮現
事し之は右航海之程甚一切有程
志休力は事あり申物多し其石定事
月後之三日ルカと事あり西田其之書
しし書書に採之石は信之書程
し海人官事合し之は物程あり有之事

九月三日海江物之程事

一 重二百兩

事之今三月右志休戸部に航海之物
公事し之は事あり申物多し其石定事
上細は事あり申物多し其石定事
程大程事あり程多し其石定事
事之程多し其石定事

石通運送の宜と云は後日遠程也
少産の所より

慶應三年

二月

壬午正月

高橋屋本下
少産運送

菊

志体中
高橋

菊令一札事

一以及言乃招集法産物行仁法身并村
産物より納上地産物行仁法身并村
江別表より納上地産物行仁法身并村
不取方此言より内人上産物行仁法身并村
候仕り如由知下我より内人上産物行仁法身并村
少産の所より

此即其年所許由途或命市科者其我學以受
多為其耳一予以有立其法者其何文何所

少遊江之十日

庚子年
四月廿五日

肥後元貞

南江

海防

二十七日

空舟書事

一 此舟之口于二日船借宿大坂表也通洋
一 舟一圓洋舟人見之其言其入之代作
洋舟六方數之多其言其入之代作
中之言其入之代作其言其入之代作
之舟通保其根洋舟之其言其入之代作
石舟代其入之代作其言其入之代作

昔一月每... 運... 仍... 仍... 仍...

... 仍... 仍...

... 仍... 仍...

... 仍... 仍...

... 仍... 仍...

... 仍... 仍...